

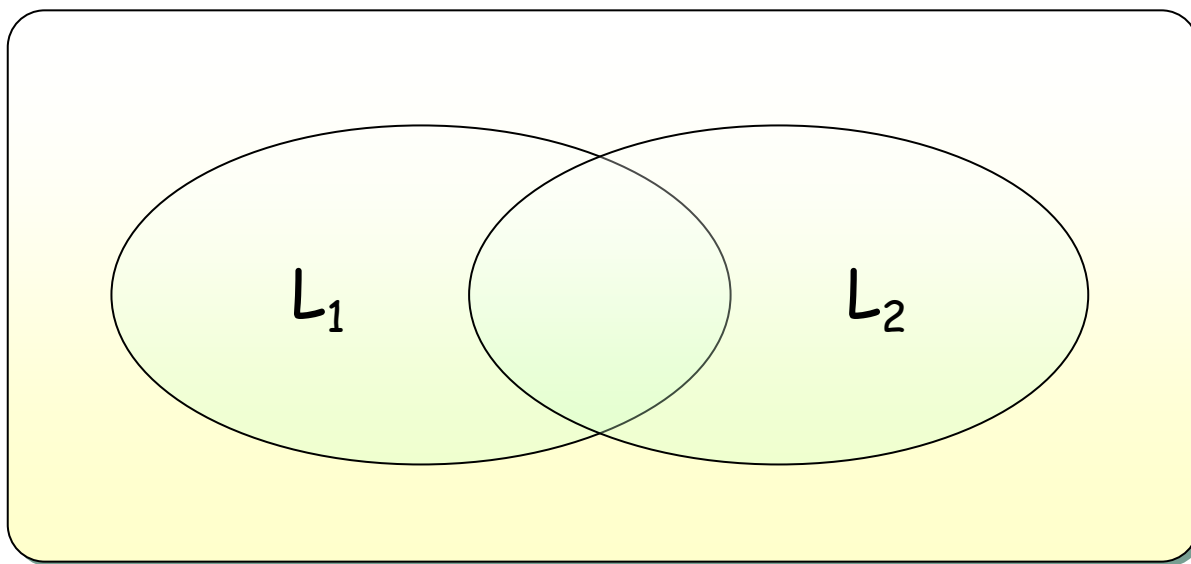
## 2.2 正規集合の演算

- アルファベット  $\Sigma$  上の正規集合の族

$$\mathcal{R}(\Sigma) = \{L \mid L \text{ は正規言語}\}$$

は集合演算  $\cup, \cap, \bar{\phantom{x}}$  のもとでブール代数をなす

$$\mathcal{R}(\Sigma)$$



# 補題 2.1

## 補題2.1

正規集合  $L$  の補集合  $\bar{L} = \Sigma^* - L$  は正規集合

## 証明

$L$  を受理するオートマトンを  $M = (K, \Sigma, \delta, q_0, F)$  とするとき、 $\bar{M} = (K, \underline{\Sigma}, \delta, q_0, K - F)$  とすると  $L(\bar{M}) = \bar{L}(M)$  となる。

# 補題 2.2

## 補題2.2

$L_1, L_2 \subseteq \Sigma^*$  を正規集合とする。

(1)  $L_1 \cup L_2$  は正規集合である。

(2)  $L_1 \cap L_2$  は正規集合である。

証明 (1)について証明する。

$L_1 = L(M_1)$ 、 $M_1 = (K_1, \Sigma, \delta_1, q_0^1, F_1)$  とし、 $L_2$  に対しても  $M_2$  を定義する。 $M_1, M_2$  から次の遷移関数  $\delta$  と受理状態  $F$  をつくる。

$$\delta((q_1, q_2), a) = (\delta_1(q_1, a), \delta_2(q_2, a))$$
$$(q_1 \in K_1, q_2 \in K_2, a \in \Sigma)$$

$$F = F_1 \times K_2 \cup K_1 \times F_2$$

# 証明つづき

任意の  $q_1 \in K_1, q_2 \in K_2$  に対して,

$$\delta((q_1, q_2), e) = (\delta_1(q_1, e), \delta_2(q_2, e)) = (q_1, q_2)$$

数学的帰納法のベースステップ

$$\delta((q_1, q_2), x) = (\delta_1(q_1, x), \delta_2(q_2, x)) \quad (\text{仮定 } |x| \leq k)$$

$$\delta((q_1, q_2), ax) = \delta(\delta((q_1, q_2), a), x)$$

定義より

$$= \delta((\delta_1(q_1, a), \delta_2(q_2, a)), x)$$

帰納法の仮定

$$= (\delta_1(\delta_1(q_1, a), x), \delta_2(\delta_2(q_2, a), x))$$

帰納法の仮定

$$= (\delta_1(q_1, ax), \delta_2(q_2, ax))$$

定義より

# 証明つづき

$$x \in L(M) \Leftrightarrow \delta((q_0^1, q_0^2), x) \in F$$

$$\Leftrightarrow (\delta_1(q_0^1, x), \delta_2(q_0^2, x)) \in F_1 \times K_2 \cup K_1 \times F_2$$

$$\Leftrightarrow \delta_1(q_0^1, x) \in F_1 \text{ または } \delta_2(q_0^2, x) \in F_2$$

$$\Leftrightarrow x \in L(M_1) \cup L(M_2)$$

(2)の証明は省略

(1)のときと、終状態の条件が違うだけ。